



育成牛・肥育牛生産費統計調査票
【交雑種育成牛】

「農業簿記 11（ソリマチ）」を活用した調査票

記入マニュアル

農林水産省

大臣官房統計部
経営・構造統計課

農林水産省

目 次

はじめに

「農業簿記」での初期設定・・・・・・・・・・ 1

部門や補助科目の設定、補助科目一覧表・・・・ 2、3

調査票の記入

1：経営の概況・・・・・・・・・・ 4、5

2：調査対象畜の取引状況・・・・・・・・・・ 4～7

3：調査対象畜の生産に使用した資材等・・・・ 8～19

4：物件税及び公課諸負担・・・・・・・・・・ 20、21

5：消費税・・・・・・・・・・ 22

6：借入金（買掛未払金を含む。）及び支払利子・・・・ 22、23

7：出荷に要した経費・・・・・・・・・・ 24、25

8：建物及び構築物（土地改良施設を含む。）
の所有状況・・・・・・・・・・ 26、27

9：自動車（自動二輪・三輪を含む。）の所有状況・・・・ 28、29

10：農業機械（生産管理機器を含む。）の所有状況・・・・ 30、31

11：農具の購入費等・・・・・・・・・・ 32、33

12：作業別労働時間・・・・・・・・・・ 34、35

13：地代（所有地及び借入地）・・・・・・・・・・ 36、37

<記入上の注意事項>

- 1. 調査項目欄については、右詰で記入してください。
- 2. 記入に際しては、黒の鉛筆またはシャープペンシルを使用し、間違えた場合は消しゴムできれいに消してください。
- 3. 回答もれや回答誤りがないか、最後にもう一度ご確認ください。
- 4. 「農業簿記 1 1」で、把握できない項目については、「記入の仕方」を参考にして、調査票に直接ご記入ください。
- 5. また、記入内容について、職員や専門調査員から照会等させていただく場合がございますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

※ 数字は枠からはみ出さないよう、楷書でていねいに記入してください。

※ 調査項目の具体的な説明については「調査票の記入の仕方」を参照してください。

はじめに

「農業簿記11」での初期設定

農業簿記のデータを用いて、交雑種育成牛生産費の調査票を記入する場合、初期設定にある「肉牛部門」に、記帳しておく必要があります。

なお、当該育成牛のみ生産している場合は部門の設定は必要ありません。（取引事項が発生した時点で、設定することも可能です。）

部門の設定は、一番最初の起動時に、案内に沿って進めていくことで、設定されますが、肉牛部門は後から設定します。

- 1 メニュー画面
- 2 初期を選択
- 3 基本を選択
- 4 部門設定を選択・・・部門階層は2もしくは3階層にします。（詳細は、農業簿記「導入マニュアル」を参照してください。）

また、交雑種育成牛生産費用の調査項目を設定する場合は、補助科目機能を利用し、勘定科目の内訳を作成します。

例えば、飼料費の内訳として、**大麦**、**とうもろこし**、**配合飼料**等を設定する必要があります。（3頁に一覧表があります。）

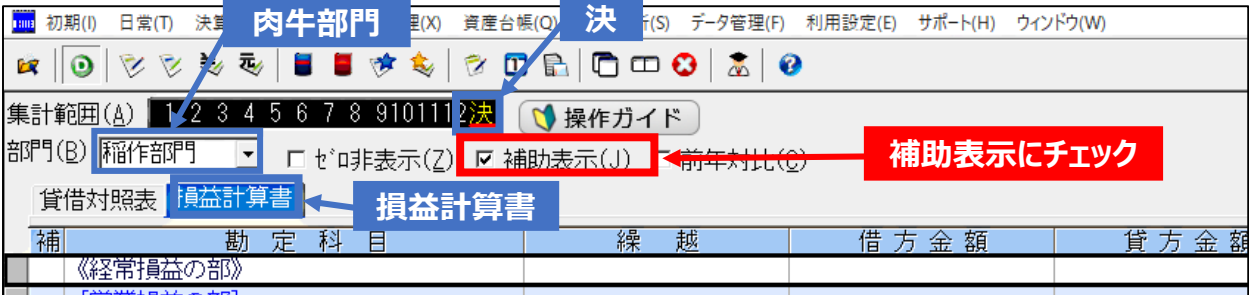
以下の手順にて、交雑種育成牛生産費用の調査項目を設定してください。

- 1 メニュー画面
- 2 初期を選択
- 3 基本を選択
- 4 勘定科目設定を選択
- 5 補助科目設定のボタンが表示されるので、クリックして、分類（売上、経費、負債等）別に、設定します。

農業簿記 1 1（ソリマチ）の参照の仕方

ダイレクトメニューで【集計分析】⇒【集計】⇒【合計残高試算表】と進みます。

合計残高試算表 ⇒ 集計範囲：決算 ⇒ 部門：肉牛部門 ⇒ 表示タイプ「補助表示」にチェックを入れて、損益計算書を選択し印刷します。



ここでは、印刷した試算表の「残高」を見て、調査票に記入していくことを前提とします。

また、わかりやすいよう補助科目は赤字にしています。（以下、同様です。なお、実際に印刷されたものは黒字です。）

肉牛部門の設定

複数の品目を生産・販売している場合は、「肉牛部門」を事前に設定します。以下の図はソリマチ「農業簿記11」の起動画面「ダイレクトメニュー」です。
ここから、横【初期】⇒縦【基本】⇒メニュー【部門設定】と進みます。

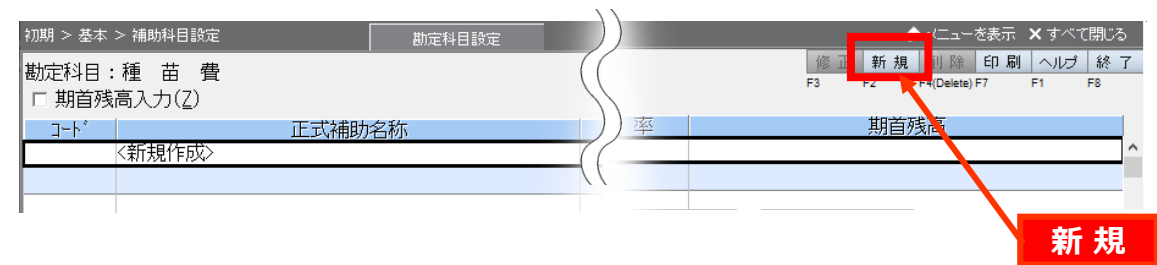


補助科目の設定

ダイレクトメニューで【初期】⇒【基本】⇒【勘定科目設定】と進みます。
補助科目を追加したい勘定科目を選択し、上部タブメニューの【補助】を選択



「補助科目設定」画面から【新規】⇒入力フォームが表示されるので【正式補助名称】の記入と【税率】の設定をおこない【設定】ボタンを押すと登録されます。



交雑種育成牛生産費における補助科目（設定例）

損益計算書（勘定科目）⇒《経常損益の部》

【売上高】売上高

牛馬
きゅう肥（販売用）

【生産原価】

穀類
大麦
その他の麦
とうもろこし
飼料用米
その他の穀類
ぬか・ふすま類
ふすま
その他のぬか・ふすま類
植物性かす類
大豆油かす
ビートパルプ
その他の植物性かす類

配合飼料
T M R
牛乳脱脂乳
いも類及び野菜類
わら類
稲わら
その他のわら類

生牧草
乾牧草
ハイキューブ
その他の乾牧草
サイレージ
いね科
稲発酵粗飼料
その他のサイレージ
上記以外の購入飼料

稲わら
おがくず
麦わら
乾牧草
その他

建物敷地
運動場
牧草栽培
採草地

重油
軽油
灯油
ガソリン
水道料
電力料
その他

獣医師料
医薬品費
その他医療費等

建物修繕費
農具修繕費
車修繕費
建物解体費

共同負担金
農機具借料
その他
草地費
草地開発事業の負担金（草地造成事業）
草地開発事業の負担金（草地整備事業）
土地改良事業の負担金

消石灰
デントコーンの種子
ラッピングフィルム
ハエ取り紙

雇人費	男雇用
	女雇用

【販売費一般管理費】

物件税
固定資産税・建物
固定資産税・農機具
都市計画税（土地以外）
不動産取得税（土地以外）
自動車取得税
共同施設税
軽・自動車税
自動車重量税
公課負担金
自賠責保険
集落協議会費
農業協同組合費
肉用牛組合費
農事実行組合費
家畜共済組合賦課金

共済掛金
疾病共済掛金

損害保険料
自動車保険料
建物保険料
農業機械保険料

【営業外損益の部】

【負債の部】

流動負債	買掛金
	短期借入金

固定負債	長期借入金
	△△資金（畜舎用）
	××資金（ローダー用）
	○○資金（トラクター）

※ 上記以外でも普段使用しているものがあれば、随時追加しておいてください。

【1】経営の概況

- 1 経営耕地
- 2 世帯員数と農業就業者数等
- 3 認定農業者の状況

調査票 P3

「経営の概況」1～3項

左記3項目に関しては、「農業簿記11」では対応しておりません。
育成牛・肥育牛生産費統計調査票【交雑種育成牛】「調査票の記入の仕方」を参照し
ご記入願います。

【2】調査対象畜の取引状況

調査票 P4

「調査対象畜の取引」農家団体コード

「農業簿記11」では、対応しておりません。以下、全項目で同様です。

「調査対象畜の個体識別番号」

「農業簿記11」では、対応しておりません。以下、全項目で同様です。

1 農家団体コード（牛トレサ関係）

農家団体コード1	農家団体コード2	農家団体コード3
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9	0 9 8 7 6 5 4 3 2 1	

2 調査対象畜の購入・売却状況

個体識別番号 (10ケタの耳標番号)	名 称 (記入は任意)	異動 月	購入・売却 (該当に○)	取引金額(円) (購入額、売却額)	売却時 生体重 (kg)
		月	購入 売却	万 千 百 十	百 十
(購入の例)			購入 売却		
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		1	○ 購入 売却	1 0 0 0 0 0 0 0	
(売却の例)			購入 売却		
2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		2	購入 ○ 売却	4 9 0 0 0 0 0 0	3 0 0
			購入 売却		
			購入 売却		
			購入 売却		
			購入 売却		
			購入 売却		

調査対象畜の購入・売却状況

牛トレサデータに基づき、年内に異動（購入・売却）のあった牛について、
「個体識別番号」、「異動月」、「購入・売却（○）」を印字してありますので、
当該牛の取引金額（購入額、売却額）を記入してください。
なお、売却時の生体重が不明の場合は、記入方法を担当にご相談ください。

（購入の場合）
当該牛の購入額を「取引金額」欄に記入してください。

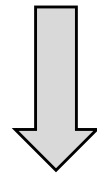
（売却の場合）
当該牛の売却額を「取引金額」欄に、売却時の生体重を「売却時生体重」欄に
記入してください。

【2】調査対象畜の取引状況（続き）

調査票 P5

3 きゅう肥の利用状況

総搬出量 の割合 (%)	販売用			自家利用			廃棄		
	1	0	0	2	0	7	0	1	0



販売金額（円）

5	0	0	0	0
---	---	---	---	---

物々交換した場合					
品目名 (具体的に記入)	数量				単位
	万	千	百	十	
稲わら			1	0	束
麦わら			1	0	kg
玄米				6	kg
ジュース	1	0	0	0	円

きゅう肥の総搬出量割合

「農業簿記11」では対応しておりません。
育成牛・肥育牛生産費統計調査票【交雑種育成牛】「調査票の記入の仕方」を参照し
ご記入願います。

きゅう肥の利用状況（販売）

ダイレクトメニューで【集計分析】⇒【集計】⇒【合計残高試算表】と進みます。
合計残高試算表の決算・肉牛部門・損益計算書を印刷します。
この事例では、売上高の補助科目として「きゅう肥」を設定しました。

損益計算書

肉牛部門

勘定科目	繰越	借方金額	貸方金額	残高	構成比(%)
《経常損益の部》					
[営業損益の部]					
【売上高】					
きゅう肥（販売用）				50,000	

物々交換

「農業簿記11」では対応しておりません。
育成牛・肥育牛生産費統計調査票【交雑種育成牛】「調査票の記入の仕方」を参照し
ご記入願います。